

WSkS (Weakly Second-order monadic logic with k Successors)

- k 種類のアλファベットからなる文字列とその集合を表す変数を持つ論理
- 例 : $\forall x.(x \in X \Rightarrow x \in Y)$
- 充足可能性が決定可能

- WSkS の構文

- 項 : 1 階変数 $x, y, z \dots$ と $1, \dots, k$ からなる文字列 (変数は左端のみ可)

例 : $x1123, 211, \varepsilon$

- 原始式 : $s = t, s \leq t, s \geq t, t \in X$
(項を s, t で、2 階変数を X, Y などで表す)
- 式 : $\vee, \wedge, \neg, \Rightarrow, \Leftarrow, \Leftrightarrow, \exists x, \forall x, \exists X, \forall X$ を使って
原始式から作られる

● WSkS の意味

- 項は文字列として解釈
- 1 階変数 x は文字列を表す、2 階変数 X は文字列の集合を表す
- $=$ は文字列の等しさ、 \in は「属す」、 \leq はプレフィックス
例 : $13 \leq 1322$ 、 $11 \not\leq 121$
- ϕ を自由変数 $x_1, \dots, x_n, X_1, \dots, X_m$ を持つ式、
 $t_i \in \{1, \dots, k\}^*$ 、 $S_i \subseteq \{1, \dots, k\}^*$ とするとき、
$$t_1, \dots, t_n, S_1, \dots, S_m \models \phi$$

は、 x_i に t_i を、 X_i に S_i を割り当てたとき ϕ が成立することを表す

- 式の例と略記法

- 部分集合 $X \subseteq Y$

$$\forall x.(x \in X \Rightarrow x \in Y)$$

- 集合の等しさ $Y = X$

$$Y \subseteq X \wedge X \subseteq Y$$

- 集合が空 $X = \emptyset$

$$\forall Y.(Y \subseteq X \Rightarrow Y = X)$$

- 積が空 $X \cap Y = \emptyset$

$$\forall x.((x \in X \Rightarrow x \notin Y) \wedge (x \in Y \Rightarrow x \notin X))$$

- 単集合 $Sing(X)$

$$X \neq \emptyset \wedge \forall Y.(Y \subseteq X \Rightarrow (Y = X \vee Y = \emptyset))$$

- 式の例と略記法 (続き)

- 有限個の和集合 $X = \bigcup_{i=1}^n X_i$

$$\bigwedge_{i=1}^n X_i \subseteq X \wedge \forall x. (x \in X \Rightarrow \bigvee_{i=1}^n x \in X_i)$$

- 分割 $Partition(X, X_1, \dots, X_n)$

$$X = \bigcup_{i=1}^n X_i \wedge \left(\bigwedge_{i=1}^{n-1} \bigwedge_{j=i+1}^n X_i \cap X_j = \emptyset \right)$$

- プレフィックス $x \leq y$: (つまり \leq は本質的でない)

$$\forall X. (y \in X \wedge (\forall z. (\bigvee_{i=1}^k zi \in X) \Rightarrow z \in X) \Rightarrow x \in X)$$

- プレフィックスで閉じている $PrefixClosed(X)$:

$$\forall x. \forall y. ((x \in X \wedge y \leq x) \Rightarrow y \in X)$$

- 構文の制限：今後の証明を簡単にするために記述力が等価に保ちつつ、原始式中の演算を以下のみに、変数を2階変数のみに限定する
 - $X \subseteq Y$ 、 $Sing(X)$ 、 $X = Yi$ 、 $X = \varepsilon$
 - $X = Yi$ の解釈は、 X と Y がそれぞれ単集合 $\{t\}, \{s\}$ で、かつ、 $t = si$ を満たすとき真とする
 - ϕ を制限された**WSkS**式とするとき、その充足性を以下のように表す

$$S_1, \dots, S_n \models \phi$$

- 命題1 : **WSkS** 論理式から、それと等価な制限された構文の論理式への変換 T が存在する。すなわち、

$$s_1, \dots, s_n, S_1, \dots, S_m \models \phi$$

iff

$$\{s_1\}, \dots, \{s_n\}, S_1, \dots, S_m \models T(\phi)$$

また、逆変換 T' も存在する

- 証明 : T の構成を示す。 T' は省略。

$$T(ti \in X) = T(\exists y.(y = ti \wedge y \in X))$$

$$T(y \in X) = X_y \subseteq X$$

● 証明(続き) :

$$T(t = s) = T(\exists z. z = t \wedge z = s)$$

(t と s が変数でないとき)

$$T(x = ti) = T(\exists z. z = t \wedge x = zi)$$

(t が変数でないとき)

$$T(x = yi) = X_x = X_y i$$

$$T(x = \varepsilon) = X_x = \varepsilon$$

$$T(x = y) = X_x = X_y$$

$$T(\phi \vee \psi) = T(\phi) \vee T(\psi)$$

$$T(\neg \phi) = \neg T(\phi)$$

$$T(\exists X. \phi) = \exists X. T(\phi)$$

$$T(\exists x. \phi) = \exists X_y. (Sing(X_y) \wedge T(\phi))$$

WSkSで定義可能な関係はNFTAで認識可能

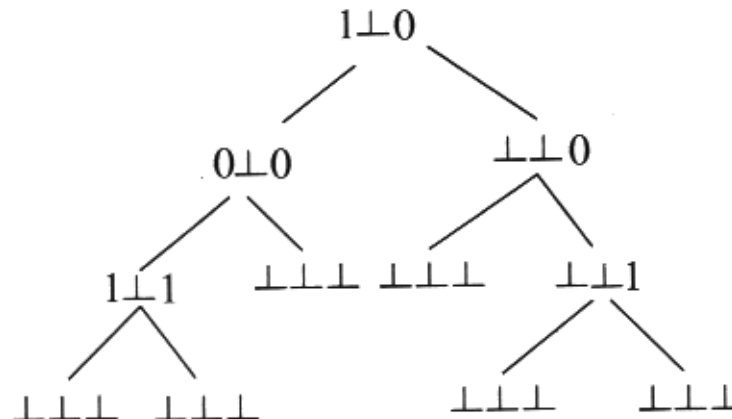
- 文字列の集合間の関係 R が **WSkS** で **定義可能** :
 $S_1, \dots, S_n \subseteq \{1, \dots, k\}^*$ について、以下を満たす **WSkS** 式 ϕ が存在する
 $(S_1, \dots, S_n) \in R$ **iff** $S_1, \dots, S_n \models \phi$

- (S_1, \dots, S_n) の木表現 $t = (S_1, \dots, S_n)^\sim$
 $\text{Pos}(t) =$
 $\{\varepsilon\} \cup \{pi \mid \exists p' \in \cup_{j=1}^n S_j, p \leq p', i \in \{1, \dots, k\}\}$
 $t(p) = \alpha_1 \cdots \alpha_n$

ここで、各 α_i は

$$\alpha_i = \begin{cases} 1 & \text{if } p \in S_i \\ 0 & \text{if } p \notin S - i, \exists p' \in S_i, p < p' \\ \perp & \text{otherwise} \end{cases}$$

- 例: $k = 2$ 、 $A = \{\varepsilon, 11\}$ 、 $B = \emptyset$ 、 $C = \{11, 22\}$ のとき、 $(A, B, C)^\sim =$



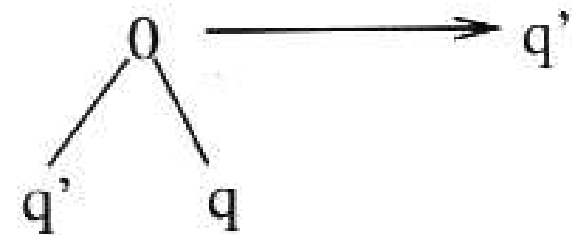
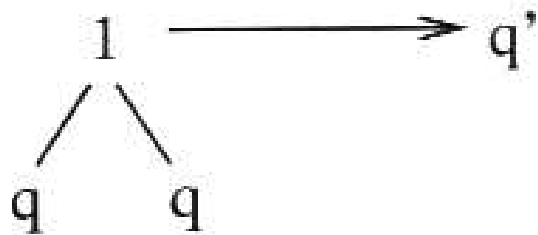
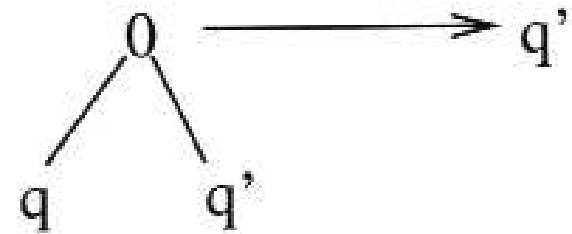
- 定理 2 : 文字列の集合の関係 R が **WSkS** で定義可能ならば、以下で定義される言語を認識するオートマトンが存在する

$$\tilde{R} = \{(S_1, \dots, S_n)^\sim \mid (S_1, \dots, S_n) \in R\}$$

- 証明 : 命題 1 より、 ϕ は制限された構文の **WSkS** 式としてよい。 ϕ の構造に関する帰納法で証明する。
以下では $k = 2$ の場合を示す。

- 証明 (続き)

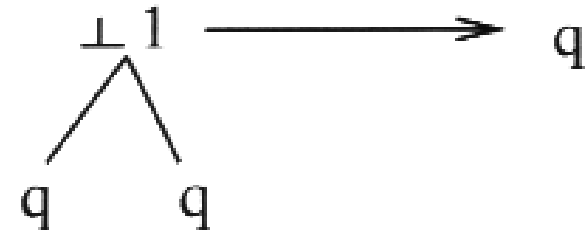
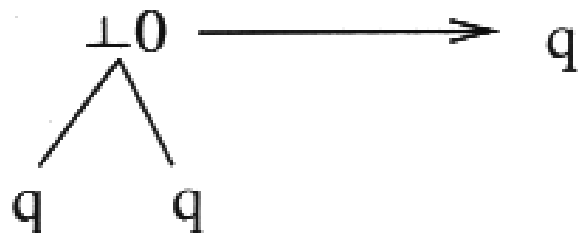
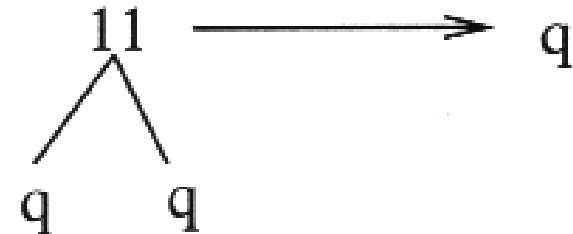
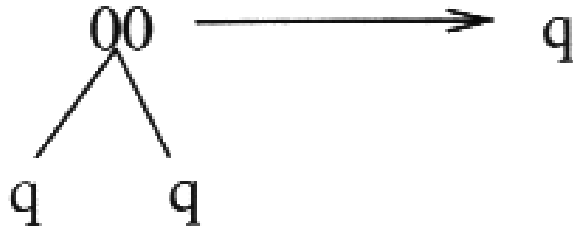
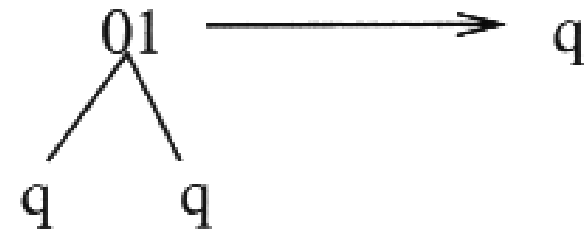
- ϕ が $Sing(X)$ のとき、 q' を受理状態として、



<http://tata.gforge.inria.fr/>

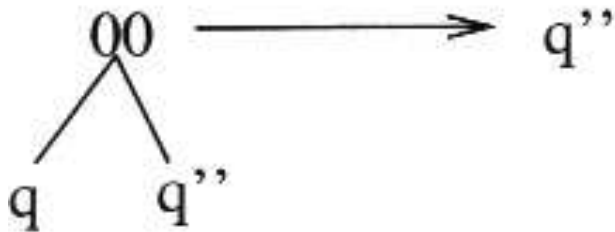
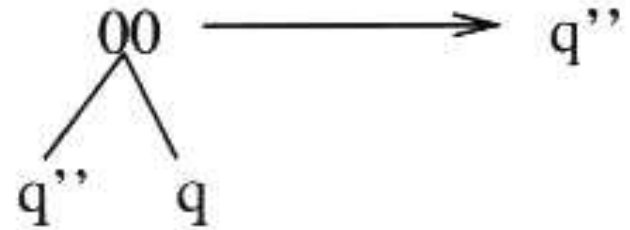
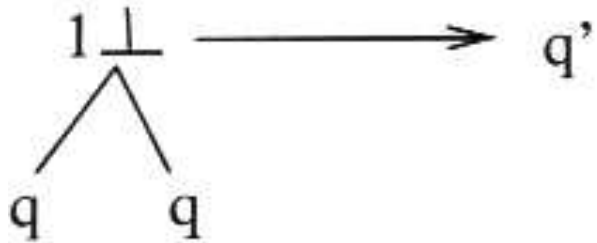
- 証明 (続き)

- ϕ が $X \subseteq Y$ のとき、 q を受理状態として、



- 証明(続き)

- ϕ が $X = Y1$ のとき、 q'' を受理状態として、



- 証明 (続き)

- ϕ が $X = \varepsilon$ のとき、 q' を受理状態として、



<http://tata.gforge.inria.fr/>

- ϕ が $\neg\phi'$ のとき、帰納法の仮定より ϕ' が定義する関係 R' を認識する木オートマトン A' が存在する。 R_1 の補集合を認識する木オートマトンを作ればよい。
- ϕ が $\exists X_i. \phi'$ のとき、 ϕ が表す関係は ϕ' が表す関係の i 番目の射影。よって ϕ' から作った木オートマトン A' の各規則 $\dots \alpha_i \dots (\dots) \rightarrow q$ を $\dots \dots (\dots) \rightarrow q$ に変更する

- 証明(続き)

- ϕ が $\phi' \vee \phi''$ を考える。簡単のために、

- ϕ' 中の自由変数が $X_1 \dots X_i \dots X_n$

- ϕ'' 中の自由変数が $X_1 \dots \dots X_n$

- とする。 ϕ'' から作った木オートマトン A'' の各規則

- $\dots \dots (\dots) \rightarrow q$ を三つの規則

- $\dots 0 \dots (\dots) \rightarrow q$

- $\dots 1 \dots (\dots) \rightarrow q$

- $\dots \perp \dots (\dots) \rightarrow q$

- に変更する。これと、 ϕ' から作った木オートマトン A' の
言語の和を認識する木オートマトンをつくれればよい

- 系3 : **WSkS** 式の充足可能性問題は決定可能である
- 証明 : 与えられた **WS1S** 式 ϕ から定まる関係を R とする。
定理2より、 \tilde{R} を認識するオートマトン A が存在する。「 $R = \emptyset$ iff $\tilde{R} = \emptyset$ 」より、 A の空問題を判定すればよい。

NFTAで認識可能な関係はWSkSで定義可能

- 木 t のコーディング \bar{t}
 - 例: 文字列 $f(g(a), a)$ は、4つの集合 (S, S_f, S_g, S_a) で表せる。ここで、 $S = \{\varepsilon, 1, 11, 2\}$ 、 $S_f = \{\varepsilon\}$ $S_g = \{1\}$ $S_a = \{11, 2\}$
- 集合の組が木のコーディングであるかの判定

$$\begin{aligned} & \text{Term}(X, X_{f_1}, \dots, X_{f_n}): X \neq \emptyset \\ & \wedge \text{Partition}(X, X_{f_1}, \dots, X_{f_n}) \wedge \text{PrefixClosed}(X) \\ & \wedge \bigwedge_{i=1}^k \bigwedge_{\text{arity}(f_j)=i} \forall x \left(x \in X_{f_j} \Rightarrow \right. \\ & \quad \left. \left(\bigwedge_{\ell=1}^i x\ell \in X \wedge \bigwedge_{\ell=i+1}^k x\ell \notin X \right) \right) \end{aligned}$$

- 定理4: L をアルファベット \mathcal{F} 上の正規木言語とするとき、次を満たす**WSkS**式 ϕ が存在する

$$t \in L \text{ iff } \bar{t} \models \phi$$

- 証明: $\mathcal{F} = \{f_1, \dots, f_n\}$ 、 $L = L(A)$ を満たす**NFTA**を

$$A = (Q, \mathcal{F}, Q^f, \Delta)$$

とする。ここで、

$$Q = \{q_1, \dots, q_m\}、$$

$$\bar{t} = (S, S_{f_1}, \dots, S_{f_n})$$

とする。

- 証明(続き)

このとき、 ϕ は自由変数 $X, X_{f_1}, \dots, X_{f_n}$ をもつ以下の式で書ける。

$$\exists Y_{q_1}, \dots, \exists Y_{q_m}. \text{Term}(X, X_{f_1}, \dots, X_{f_n})$$

$$\wedge \text{Partition}(X, Y_{q_1}, \dots, Y_{q_m})$$

$$\wedge \bigvee_{p \in Q_f} \varepsilon \in Y_p$$

$$\wedge \forall x. \bigwedge_{f \in \mathcal{F}} \bigwedge_{p \in Q} ((x \in X_f \wedge x \in Y_p)$$

$$\Rightarrow \bigvee_{f(p_1, \dots, p_\ell) \rightarrow p \in \Delta} \bigwedge_{i=1}^{\ell} x_i \in Y_{p_i})$$

- 系5: Recは、**WSkS**で定義可能である。
- 証明: Recに属する関係 R について、定理4より以下を満たす**WSkS**式 ϕ が存在する。

$$(t_1, \dots, t_n) \in R \text{ iff } \overline{[t_1, \dots, t_n]} \models \phi$$